

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3 年次生

衣川 実花

1. はじめに

私は本学の国際交流基金の助成を受けて 2025 年 8 月 16 日から 22 日(本来は 15 日からでしたが、航空機の遅延により乗り継ぎ地点の香港で急遽一泊したため一日短縮)に行われたバンクーバーサマープログラムに参加しました。そこで、医療用語のレッスンと医療施設の見学に参加し、滞在中はホームステイをさせていただきました。

2. 渡航前に考えていた自分の目標

私は渡航前に二つの目標を立てました。1 つ目は、不安がらず自分から積極的に話すことを重要視したコミュニケーションをとることで、2 つ目は、英語のリスニングやスピーキングはもちろん医療用英語を覚える等の英語能力の向上です。

3. その目標は渡航後どうだったか

私はどちらの目標もともに達成できたように感じます。わからないことがあれば現地の人に尋ねたり、授業を担当してくださった先生に質問したり手を上げて自分の考えを積極的に発言したり、またホストファミリーとも自分からコミュニケーションを取りにいくことができました。リスニングよりスピーキングが苦手だったので、つたない英語で、文法もおかしなところがあったと思いますが、相手も聞き取ろうとしてくれたので不安がらずに自分から話しかけにいくことができました。医療用英語は聞いたことがあるだけという単語が多かったのですが、授業最後の英語のゲームでは意味も一緒に答えることができました。

4. これからの自分

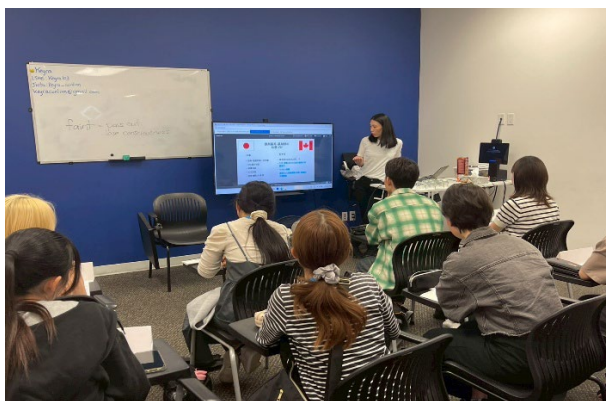
今まで自分から積極的にコミュニケーションや行動をとろうとしてこなかったのですが、今回のプログラムで自分はコミュニケーションをとることが苦手なのではなく、してこなかっただけなのだとわかりました。初めて行く場所でいろんな人と英語で話すことで、話していくうちにコミュニケーションが少しずつとれていくことが楽しく感じ、これからはよりたくさんの人と関わって、もっといろんな人と話してコミュニケーションをとっていきたいと思いました。特にバンクーバーにはいろんな国籍や文化

を持っている中で、一人一人の文化を理解し受け入れていくという医療従事者の言葉を聞いて、私も一人一人に寄り添える人になりたいと思いました。

5. 医療施設見学

医療施設見学では、現地の病院や薬局に訪問させていただきました。その中で驚いたことは、医療費がタダであるということと、治療を受けるのに長い期間待たなければいけないということです。そのため医療不足が問題になっているということも知りました。

また、薬局で働く日本人の薬剤師の方の話や、看護師の話を聞いて思ったことは、日本と違ってそれぞれの職種に与えられている権限が広いということです。日本では、なにか提案や訂正があると最初に医者に判断を仰ぎますが、カナダでは状況によっては、医師の判断なしに自分の判断で行動ができるということです。自主性や判断力が求められ、その分の責任も伴いますが、それでも多職種どうしが互いに対等なのは、日本では見られないことだと感じました。特に薬局ではワクチン接種も行っているということにも驚きました。



6. 語学学習

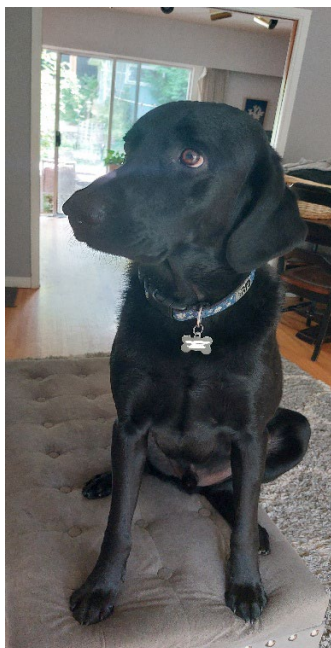
現地の学校であるC I C C Cに通い、そこで様々な医療に関する英語を学びました。医療用単語から患者や医者、薬剤師に分かれて英語で台本を作って発表したり、施設の見学に行ってきたことや感想などを言い合ったりしました。授業形式は先生が生徒を当てていくのではなく、自分から挙手をして発言していくことが多く、英語で説明するのは不安でしたが、ジェスチャーも交えて積極的に発言することができたので、

とても自主性がついたように感じます。また、私が言いたかったことや説明したかったことを、先生が正しい英語で言い直してくれるのでそういう風に言えば伝わるのだと勉強にもなりました。先生もわかりやすい単語で説明したり、ジェスチャーも交えたりしてくれたので話している内容もほとんど理解できましたし、リスニング能力も上がっていったように感じました。



7. ホームステイ

ホームステイ先はノースバンクーバーに住むご家族でした。その家族の娘さんは旅行に行っていたようでしたので、ホストマザーと愛犬と一緒に生活しました。ホストマザーは早く寝て、遅く起きる方だったので、なかなか一緒に話す機会がとれませんでした。それでも学校から帰ってきたときに「今日の学校はどうだった？」とか「友達はどうだった？」等と気さくに話しかけてくれました。私が聞き取りやすいようにゆっくり話したり、聞き取れなかった場合はわかるように言い換えたり、また私が話すときもせかさずに最後まで聞いてくださったので、最初は英語が支離滅裂でしたが最後は自分から焦らずに話しかけにいけるくらいまで慣れていきました。



8. 最後に

私はこのプログラムを通して、日本とカナダの医療制度の違いや文化の違いなど様々なことを学ぶことができました。短い期間でしたが、現地の病院や薬局を訪問でき、いろいろな話を聞くことができました。元々海外で働くことに興味があったので、いい経験になりましたし、たくさんのことを聞いて学ばせてもらいました。プログラムに参加したことで日本の薬剤師との違いを知り、さらに実際にカナダで働く日本人の話も聞き、自分の考えや視野が広がりより一層海外で働くことに興味がわきました。自分の将来を、この貴重な経験も踏まえて残りの薬学部生活でじっくり考えていきたいと思います。